

歳入出統計表緒言并凡例

2951



414
A1501



出統計表緒言

歳入歳出あり又其決算ナカルヘケラス苟モ
 歳入歳出アツテ決算ナキハ此レ其始アツテ其終
 ナキナリ會計ノ法豈是ノ如クナルヘケンヤ徳川氏
 ノ政權ヲ奉還スルヤ理財會計ノ事亦政府ノ統理ニ
 歸シ丁卯十二月始メテ會計局ヲ京都ニ開キシヨリ
 以テ今日ノ大蔵ニ至ルマテ年ヲ閱スル殆ト十週各
 項租税ノ收入ト百般經費ノ支出ト其額毎歳同シカ
 ラズ高シテ其之ヲ決算シテ出入ノ贏餘故乏如何ヲ
 明示スルニ至テハ雜新以降未ダ曾テ一簿ノ觀ルヘ
 キモノナシ蓋シ斯事タルヤ吾統計寮ノ章程ニ在テ
 之ヲ詳々ナラサルニ付シテ已ムヘケラス故ニ開察

大正十一年四月

以来各種ノ計簿ヲ彙集シ諸廳ノ申報ヲ檢計シ致々
汲々審理精計スルヲ茲ニ年アリト雖モ奈何セン當
時兵馬ノ騷擾ニ際シ簿記ノ制法未タ定ラス出納ノ
規程未タ完タラス是ヲ以テ九縣ノ上計簿既ニ編成
スト雖モ一府未タ編成セサレハ併セテ之ヲ鹵莽ニ
付シ甲官ノ勘定帳已ニ報上スト雖モ乙省未タ報上
セサレハ共ニ其完キヲ得ス是ニ於テ牙籌ヲ抛チ毛
穎ヲ投シ將ニ廢報セントスルモノ數ナリ小官因テ
謂ラク事功ノ舉テサレハ之ヲ今日ニ督スヘシト雖
モ簿書ノ備テサレハ之ヲ既往ニ咎ムヘカラス夫レ
此ノ如クニシテ幾多ノ星霜ヲ費シ幾多ノ精神ヲ耗
スルモ終ニ周備完結ノ期ナカレヘシ若クス實際出
納ノ現計ヲ以テ姑ラク決算ト看做シ之ヲ總理統

計スルノ勝レルニハト乃チ卿輔ノ先裁ヲ經テ慶應
三年十二月ヨリ明治六年十二月ニ至ルマテ分ツテ
六週年トシ其歲入歲出ヲ計上シ名ツケテ歲入出統
計表ト云ヒ附スルニ細目表一冊ヲ以テシ以テ之ヲ
上ル表中舉クル所一切現計ニ據ルヲ以テ歲入歲出
共ニ年度ノ混淆項目ノ錯出ヲ免レ難シ譬ヘハ甲年
ノ租賦乙年ニ至テ交納スルアレハ之ヲ乙年ニ屬ス
ルカ如シ諸經費モ亦然リ是レ情勢ノ已ムヲ得ナル
ニ出ル者ニシテ實ニ會計ノ變則ナリ覽者幸ニ其正
且確ヲラサルヲ罪スルヲ勿レ

明治

統計權頭深江順暢

凡例

一 慶應三年十二月ヨリ明治六年十二月ニ至ルマテ
 七十三個月之ヲ分ツテ六週年トシ以テ各々決算
 ノ期限トス而シテ此六週間ニ於テ會計年度ヲ更
 正スルト二回故ニ其月数均一ナラス且各年豊歉
 ノ異ナルヤ歳入モ亦多寡ノ差ナキ能ハス之ニ加
 フルニ戊辰以後廢藩ノ時ニ至ルマテ政府ノ直轄
 スル所又其廣狹ヲ異ニセリ因テ其沿革ヲ示ス左
 ノ如シ

第一周年

自慶應三年丁卯十二月
至明治元年戊辰十二月

丁卯十二月始テ會計局ヲ置キ財政ノ事

務ヲ總ブト雖モ全年ノ出入ニ至テハ竟
ニ見ルヘキ者ナシ故ニ該月ヲ以テ戊辰
ノ年ニ併セテ總計ス

二 府 三十一縣 十六藩預所

所管石高總計五百三拾九万七千四百三
拾三石余

第二周年

自明治二年己巳一月
至全 年 九 月

此年十月會計年度ヲ改正スルニ因リ此
九ヶ月ヲ以テ一周年トス

三 府 三十七縣 十五藩預所

所管石高總計七百六拾三万千六百七拾
石余

第三周年

自明治二年己巳十月
至全 年 九 月

三 府 三十七縣 十五藩預所

所管石高總計七百六拾三万千六百七拾
石余

第四周年

自明治三年庚午十月
至全 年 九 月

三 府 四十縣 十四藩預所

所管石高總計八百八拾万七千百貳拾三
石余

第五周年

自明治四年辛未十月
至全 年 十二月

壬申十二月改曆アリ隨テ會計年度ヲ改

心々ルニ因リ壬申十二月二日マテヲ一周年トス

三 府 六十九縣

所管石高總計三千百九拾九万四千百五拾壹石余

第六周年 自明治六年一月 至全年十二月

三 府

一 歳入ノ科目各年不同アリト雖モ大抵左ノ九科ニ過キス但地租ノ類廢藩以前ハ直隸府縣ノ貢納ニ係ルト雖モ其之ヲ納ルル貢租總額ノ中ヨリ地方ノ常費ニ供スヘキ數ヲ減除シ其餘ヲ收納スルヲ

以テ則トス故ニ其減除ノ數ヲ併ルニアラサレハ歳入ノ全額ト稱スヘカラス然レモ當時簿書ノ其數ヲ徵スヘキモノ完全ナラサルヲ以テ特ニ金庫收納ノ現額ヲ以テ其歳入ト定ムルノミ

一曰通常歳入

其細目ハ地租海關稅其他各種ノ稅川々國役金軍資金及ヒ鑛山電信瀛車製鐵所ノ諸收入等是ナリ其詳細ハ細目表ニ就テ參看スヘシ以下各科モ亦之ニ倣フ但當時ノ租稅ナル者ハ各地方ノ舊法ニ依テ各厘ノ雜稅ヲ包含スト雖モ前条ニ述ルカ如ク其内ヨリ該地方ノ經費ヲ除却シ其殘餘ヲ收納スル者ニシテ令復其種目ヲ料分スル能ハス故ニ概シテ租稅

ト稱シ之ヲ揚上ス然リ而シテ又別ニ雜稅ノ
目ナル者ハ地方輸納ノ際故ラニ雜稅ノ名ヲ
以テスル者ナリ軍資金ハ軍事ノ經費トシテ
賦課セシ者ニシテ其初メハ軍務官及兵部省
ニ直納シテ兩廳各自之ヲ消費シ其後大藏省
ニ委シテ徵収スト雖モ當時規例ノ確定セザ
ル其之ヲ納ムルヤ蓋シ納ル者ヲシテ軍務官
若クハ兵部大藏兩廳ノ内便宜ニ從テ納付セ
シヲ以テ今其全額ヲ觀ルニ由ナシ而シテ大
藏ニ納ムルモノハ之ヲ集括シテ軍務官兵部省
ニ交付シ其交付スルヤ該廳經費ト共ニ目ヲ
一ニシテ支出シ復軍資金ノ稱ヲ掲ケズ故ニ
該金ノ納入ハ猶雜稅ノ納入如シ而シ雜入

ハ倉廩出納ノ際集収スル所ノ計出米等ノ類ナリ
二曰臨時歲入

其細目ハ獻納諸益金諸藩上納金大宮御所造
營國役金其他種々ノ賣拂代償贖金等ノ類是
ナリ但諸藩上納金ハ戊辰ノ際寬典ヲ蒙リシ
各藩ヨリ上納スル者ナリ大宮御所造營國役
金ハ旧石高ニ賦課シテ其經費ニ充ル者ナリ
第三周年ノ牧牛馬拂下代及其税金ハ各牧場
養養ノ牛馬ヲ拂下ケシ代價并其牛馬ニ方賦
セシ税金ナリ準備ヨリ操入金ハ其理由得テ
詳カニスベカラズ蓋シ疑フテクハ常用ノ部
ヘ納入スヘキ者ヲ誤テ準備部ヘ領収シ該部
ヨリ更ニ徵納セシ者ナルヘシ而今其科目

從フキナキヲ以テ姑ク此一項ヲ設ケテ之
ヲ掲止ス臨時雜入ハ各種ノ雜収ニシテ其科
目亦得テ詳明ニスヘカラス第一周年ノ如キ
ハ其數殊ニ巨万ニ過ク蓋シ該額ハ諸廳各科
ノ經費仕拂殘及ヒ旧幕府各所ノ費用殘存ノ
類ナルニシト雖モ簿冊ノ整備セサル之ヲ訂正
スルニ由ラシ止ムヲ得ス此一項ヲ設ル者ニ
シテ臨時償金或ハ損傷紙幣引換手数料等ノ
如キモ亦此内ニ算入セリ

三曰舊幕府藏蓄

其細目ハ倉庫有高旧銅生有高旧幕府及ヒ旧
藩旧旗下引送等ノ類是ナリ但旧藩旧旗下引
送ハ旧領知若クハ旧邸ニ存野セル米金ヲ籍

収セル者ニ係ル

四曰諸返納

其細目ハ諸貸出返納石高拜借返納高法司通
高司還納其他引負金追徵等ノ類是ナリ但諸
貸出返納ハ勸農開墾及ヒ凶歉救濟勸業資本
ニ貸渡タルモノヲ徵納スルモノニシテ旧幕
ニ於テ貸附タル金穀ノ返納モ亦此内ニ算入
セリ

五曰銅及產物賣拂代

其細目ハ銅賣拂代產物賣拂代ノ二科ニシテ
民業勸課ノ為メ銅類及生糸其外產物ヲ買上
尋該品ヲ賣拂其代金ヲ収入セシ者ナリ此
此収入ハ歲中第十科買上代ノ支出ニ相對スル者ニ

シテ畢竟重複ニ屬スト雖ヒ其出入數年ニ涉
リ加之若干ノ損益ヲ生シ更ニ一種ノ者ナル
ヲ以テ別項ニ掲上スルナリ

六曰成貨受入

其細目ハ新旧貨幣鑄造ノ二科ナリ但此收入
ハ支出第八科造幣財本ニ對スル者ニシテ嘗
テ貢租ノ中へ收入シ若クハ交換ヲ經シ旧貨
價貨并買収セシ地金ノ類ヲ貨幣司及ヒ造幣
寮ニ輸シテ之ヲ改鑄シ或ハ新貨ヲ鑄造セシ
者ナリ斯ノ如キハ出入相重複スト雖ヒ其矣
収數年ニ涉リ且多少ノ損耗ナキヲ保テ難シ
殊ニ第六周年以前ニ在テハ支出ノ古金銀價
金ニ通貨ヲ付スルニ於テ蓋シ精算ヲ欠クモ

ノ少シトセス況テ戊辰己巳ノ間旧型ノ金貨
ヲ鑄造スルニ於テヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ
其差違少クラス到底出入ノ契合セサルト必
セリ故ニ出入各一項ヲ設ケテ之ヲ掲上スル
ナリ

七曰紙幣發行

其細目ハ太政官札民部省札兌換証券及ヒ新
紙幣ノ四類トス抑官省証券ノ三幣發行ノ主
義タル專ラ富國ノ基礎ヲ建ツルニ在リテ物
産ヲ興シ高事ヲ勸ムル如キ是ナリ而シテ新紙
幣ノ如キハ本ト官省証券三札ノ交換ニ供ス
ル者ト雖ヒ廢藩置縣ノ際ニ方リ非常ノ費額
ヲ要スレテ以テ率ニ歲計ノ不足ヲ致シ此ヲ

以テ其闕ヲ補フ者アリ是第五六周年ニ於テ
掲出ノ数アル所以ナリ

八曰外國借入金

其細目ハ倫敦旧公債新公債是ナリ但第三周
年ノ旧公債ハ錢道建築及ヒ貨幣地金買入等
ノ為ニ英國倫敦ニ於テ英貨百万磅ヲ借入シ
第六周年ノ新公債ハ家祿奉還資金準備トシ
テ更ニ英貨貳百四十萬磅ヲ借入シ各通貨ニ
交換收入セシ者ナリ

九曰一時借入金

其細目ハ基立調達金外國高社借入及ヒ高法
司一時借入等是ナリ但此借入ハ該年金庫ノ
缺乏ニ由リ一時外國人ヨリ借入軍需其他

ノ急ヲ補ヒシ者ニシテ會計ノ都合ニヨリ其
支出該年中若クハ翌年若クハ三四年ニ涉リ或ハ貸
下金ト差継キ償却シ大ニ歳入ノ不足ヲ補
フヲ以テ之ヲ別項ニ掲上ス而シテ其基立調達
金ト云ハ内國人民ヨリ借入スル者ニシテ外
國高社借入ハ我々開港開市場ニ居留ノ外國
人ヨリ借入シ高法司借入ハ同司ノ通関ヲ以
テ内國人ヨリ借入スル者ナリ

一 歳出ノ科目各年不同アリト雖モ大抵左ノ十一科
ニ外ナラス但地方經費ハ前條ニ陳述スルカ如キ
ノ事由マルニ由リ各年歳出ノ額亦其全数ヲ舉ル
能ハス

一曰官省其外當費

其細目ハ太政官其他各廳ノ經費及官祿月給旅費建築營繕等ノ類是ナリ而シテ軍務官ノ兵部省ニ於ケル外國事務局及外國官ノ外務省ニ於ケル其他會計官ノ大藏省ニ於ケルカ如キ則テ前置後改同廳ニシテ異稱ノ故ニ其費額ヲ合算表上ス但雜出ハ倉廩藏置ノ米穀自ラ消耗ヲ致シ支出ノ際不足ヲ生スル者等ナリ

二曰地方諸費

其細目ハ三府諸縣開拓使民政局其他堤防營繕養老賑恤開墾授產資及北海道警衛費等ノ類是ナリ

三曰家祿賞典祿及扶助

其細目ハ家祿賞典祿諸向扶助及社寺給與ノ類是ナリ

四曰臨時諸費

其細目ハ巡計費御東幸入費大阪行在所諸費降伏人諸費移轉料諸藩特別賜臨時賞典借入金利息領地物成不足渡臨時雜出等ノ類是ナリ但征計費ハ戊辰己巳ノ際東北鎮壓ノ諸費ナリ御東幸入費ハ戊辰己巳兩度ノ經費ニシテ大阪行在所諸費ハ戊辰大阪行幸中ノ經費ナリ降伏人諸費ハ箱館鎮定ノ後各所ノ降伏人ヲ東京ニ護送シ或ハ各所ニ拘置シ及テ其各藩監守ノ諸費ナリ移轉料ハ兩京ノ藩邸及

其外ノ郎定官之ヲ占用スルニヨリ他へ移
轉ノ費用ニシテ諸藩特別賜ハ領地兵燹ニ係
リ若クハ他ノ災害ニ遇テ諸藩ニ賜リシ者ナ
リ臨幸賞典ハ戊辰己巳ノ際軍功ナル者へ賜
リシ者ナリ借入金利息ハ基立調達其他一時
借入金ノ利子ナリ領地物成不足渡ハ轉封ノ
諸藩新領ノ収額田封ヨリ不足シ別途ニ賜ハ
リタル者ナリ臨時雜出ハ正金紙幣引換料及
為換打歩其他種々ノ雜出ナリ

五曰外國債償却

其細目ハ倫敦旧公債新公債ノ二科ニノ則チ
歳入第八科外國借入金ノ償還ナリ

六曰内國債償却

其細目ハ新旧公債及ヒ其利子等ニシテ旧藩
ノ負債ヲ政府ニ承辦シ逐次還償スル者ナリ
七曰一時借入金償却

其細目ハ調達金外國高社借入金高法司一時
借入金ノ類ニシテ則歳入第九科ノ償還ナリ

八曰造幣財本

其細目ハ貨幣地金渡貨幣材買上代是ナリ但
貨幣地金渡ハ貢納若クハ交換ノ古金銀廢金
ニシテ改鑄ヲ要スル者ヲ貨幣司及ヒ造幣寮
ニ交付セシ者ニシテ貨幣材買上代ハ造幣地
金ヲ買収セシ代金ノ支出ナリ而シテ其地金ハ
至當ノ通貨ヲ交付シテ一旦収入シ更ニ該寮
へ下付スヘキ者ナレモ當時順序未タ整ハカ

ル之ヲ調査スルニ由ナシ故ニ其代金ヲ以テ
直ニ地金ノ通貨ト見做シ併セテ之ヲ造幣ノ
資財トシテ掲上スル者。歳入第六科ニ具述
スル所ノ如シ

九曰諸貸渡

其細目ハ石高拜借諸貸下及ヒ高法司通高司
渡金等ノ類是ナリ但諸貸下ハ勸農開墾及ヒ
凶歉救濟勸業資本等ニ貸與セシ者ニシテ調
達金引當貸下ハ曾テ調達金一時借上ノ證書
ヲ抵當トシテ貸下シ者ナリ高法司通高司渡
金ハ其初貸金ノ名分ニアラスト雖モ該司嘗
テ此金圓ヲ以テ勸業資本ニ貸出シ廢司ノ祭
ニ於テ其殘金ト貸付ノ證書トヲ以テ還納シ

其現金ハ定約返納スヘキトノ順序ニシテ概
テ貸下金ニ外ナラサルヲ以テ此部ニ編入シ
而シテ其返納モ亦歳入第四科ニ對照スル者
ナリ

十曰銅及産物買上代

其細目ハ銅買上代産物買上代ノ二科ニシテ
歳入第五科ニ具述スルカ如ク一時勸業ノ為
買上シ銅及生糸其外産物ノ代金ニシテ之
賣拂ヒ其代金ヲ以テ更ニ收入スヘキ者ナリ

十一曰準備ノ拂出

他ノ細目ナシ蓋シ此數ハ元來準備ノ部ニ加
ヘキ者ヲ誤テ歳入中へ撥入スルヲ以テ更ニ
該部へ支移セシ者ナリト雖モ今其科目ハ得テ詳細

ニスベカラス
一各科ノ収支ニ就 其出入ノ原委ヲ考索スレハ許
返納ハ曾テ歳入ヨリ貸與セシテ以テ此返納アリ
成貨受入ト造幣財本ノ支出アルカ故ニ之ヲ改鑄
シテ此収入アリ銅産物賣拂代収入ハ曩ニ買上代
金ノ支出アルニ因ル者ニシテ其他各項ノ借入
アレハ則其償却アリ斯等ノ類ハ真ノ歳入出ト云
ヘカラス畢竟重複ニ属スル者ナレハ出入相照シ
テ五ニ扣除スヘキニ似タリト雖其収支前後數
年ニ涉リ其間簿記精密ナラスシテ之ヲ查究スル
能ハサル者アリ加之斯等ノ類之ヲ重複ト為シ悉
皆刪除スルキハ或ハ出納上ノ要領ヲ失シ支離割
裂覽ル者ヲシテ却テ其頭緒ヲ認メ難カラシムル

至ルヘシ故ヲ以テ姑ク歳入出ノ一部分ト見做
シ之ヲ掲上スル所以ナリ
一前項掲ル所ノ各科之ヲ歳入出ノ實計トス而シテ
猶此他全ク重計複算ニ係ル者アリ其細目ヲ舉ク
ルニ凡ソ三科ノリ一ニ曰ク假納假渡及仮渡ノ返
納仮納ノ下戻(異日本納ヲ要スル者若クハ操替金
預リ金ノ類之ヲ假納ト云ヒ一時操替渡シ他日還
納スヘキ者之ヲ仮渡ト云ヒ而シテ其下戻スル者
其還納スル者ト云ナリ)ニ曰ク回送金穀(東西
各所ノ倉庫ヨリ交々回送運輸スル者ヲ云フ)三ニ
曰ク交換(各種貨幣ヲ交換シ及ヒ糶糶ノ類ヲ云フ)是
ナリ此三ノモノト真ノ歳入出ニ非スト雖其出納
上常ニ無之ヲ得サルモノニシテ大ニ會計ノ實況

ヲ損益スル者ナリ此出入ヲ綜理シ之ヲ加減スル
ニアラサレハ歳末現存ノ餘贏ヲ見ル能ハス故
之ヲ套外ニ排列シ各其數ヲ比較シ又其差額ヲ合
計表出シテ以テ各年末現計ノ殘數ヲ示明ス而シ
テ其差異ノ額ハ前後數年ニ関涉スルモノアリテ
今各年ニ就テ一々其科目ヲ查上スルニ違ハ
ト雖モ到底交換ノ損益ニ外ナラサルヘシ但第二
周年以下ニ至テハ年末殘贏ヲ前期ノ越高トシテ
收入ノ部ニ置カモノ亦數目復出ノ一分ニ屬ス
一上項述ル所重複ノ外又一種ノ重複アリ過納誤納
下戻及ビ渡過返納是ナリ此二者ハ各科現計ノ額
ヨリ之ヲ除算シ務メテ其實數ヲ掲上ス然リ而シ
テ偶々本年中其科目ナキ者アリ斯ノ如キハ前年

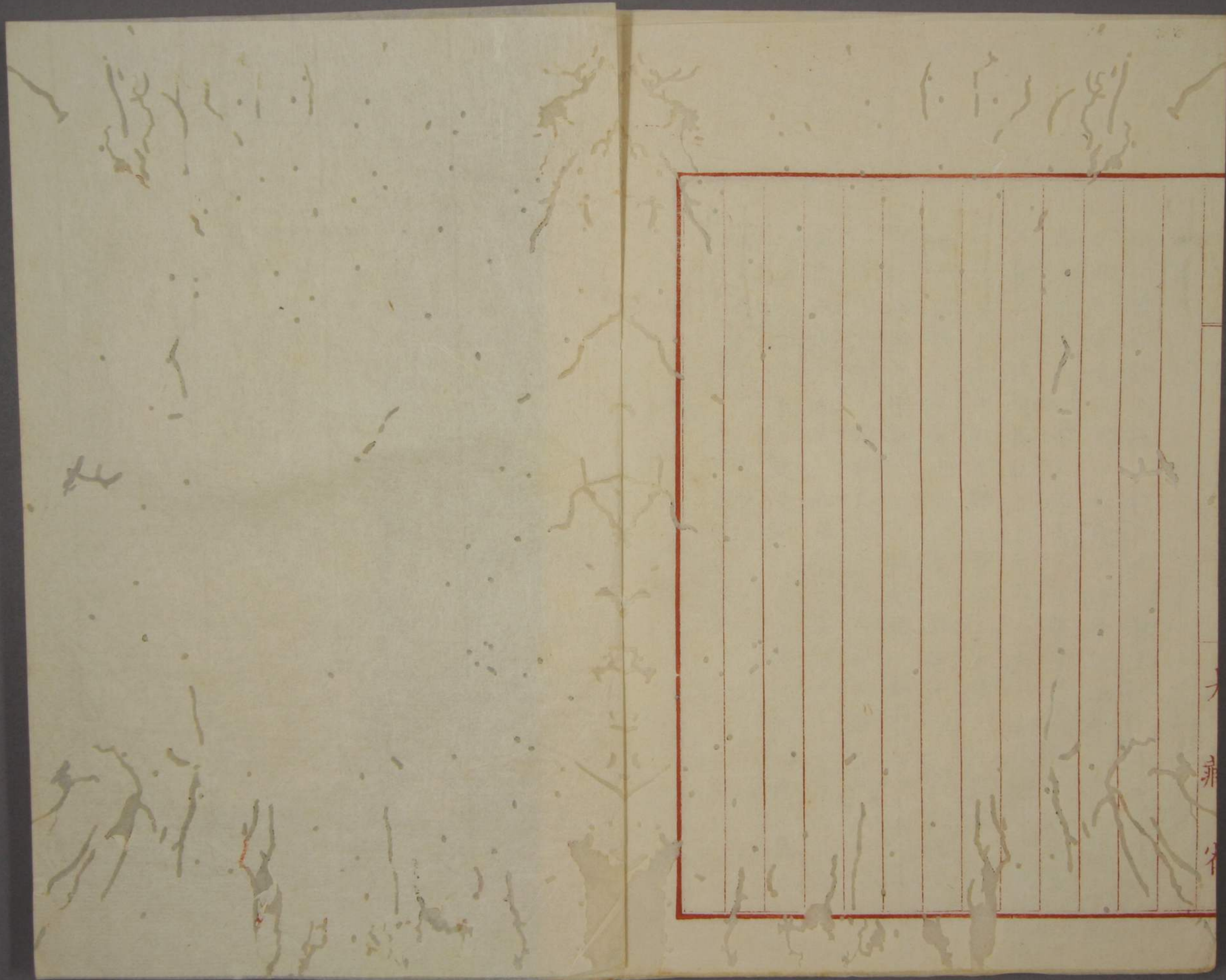
溯リ該科目アルノ所ニ於テ之ヲ扣除シ其數ハ該年
ノ假入出ニ挿入シテ以テ歳末殘存額上ノ差異ナカラシム
一第三四周年ニ於テ民部省札ヲ發行スルニ齊リ太
政官札ト交換シ其太政官札ハ一旦斷裁ノ部ニ移
スト雖モ他日又之ニ易ルニ正金ヲ充テ再々該札
ヲ取テ歳費ニ供スル者アリ一種別項ノ金額ニ屬
スルヲ以テ之ヲ歳出ノ部ニ加ヘスシテ仮渡ノ部ニ
算入シ再々交換スルノ日ニ至テ仮渡還納ノ部ニ
挿入スル者トス
一外國借入ノ旧公債ハ入出共第六周年ニ至リ初テ
出納上ノ順序ヲ履行シ其計簿ニ登錄スト雖モ其
實際ハ第三周年ノ收入ニ係ルヲ以テ之ヲ該年
編入ス新公債ハ其實際第六周年ニアレテ以テ亦

該年ニ編入セリ
一 第五六周年発行 新紙幣ハ其初ノ一時採存ノ不
義ニシテ第七周年ニ至リ計簿上更ニ発行ノ順序
ニ從ヒシ者ナリト雖ヒ實際歳入ノ不足ヲ補ヒシ
ハ五六両年ニ係ルヲ以テ今亦該年ニ編入セリ
一 明治七年一月始メテ準備金ノ一部ヲ公設シ其
目ヲ類別シテ出入順序ヲ分ツト雖ヒ退テ其濫觴
ヲ察レハ早ク己ニ戊辰己巳ノ間ニ起リ準備若ク
ハ積金等ノ名稱ヲ以テ之ヲ別庫ニ貯蓄セシモノア
リ其後紙幣準備ヲ置クニ至テ漸ク其額ヲ増加シ
殆ト巨万ノ多キニ至ル其積込所ノモノ概テ歳入
外一時収入スル者ニ係ルト雖ヒ又時ニ歳入中ヨ
リ交入スルモノナキニアラス則チ本表支出ノ部

於テ準備へ拂出ノ一科アル所以ナリ此ニ於テ
又戊辰以降毎歳準備金入出ノ決算ナルヘカラ
ス故ヲ以テ該金出納ノ諸計簿ヲ涉獵シ戊辰以降
各年収支ノ総計ヲ調理ス其事タル極テ難シト雖
ヒ今既ニ半ハ過ルヲ以テ不日將ニ査上スルニ
至ラントス
一 各年歳入出ノ如キ其實際ニ於テハ金穀ノ品類數
十種アリ之ヲ列載スルハ殊ニ煩冗ニ涉リ又是等
ニ便ナラス是ヲ以テ各種其價格ヲ通算シ大別シ
テ三種トス曰金曰洋銀曰米而シテ金ハ厘位ニ止
メ米ハ合位ニ止メ均ク四捨五入ノ法ヲ用ユ但米
穀ノ價ハ各年同カラサルヲ以テ該年東京府米
平均價ニ據リ洋銀ハ一弗壹圓壹錢ノ比較ヲ以テ

通算セシモノナリ

一或曰清理計上此如ク其レ難シ一ノ明据ヲ掲ケ
テ之ヲ示サスンハ人或ハ其牽強附會スルヲ疑フ
者ヲタラセ谷テ曰是ナリ各年末庫中留存ノ金穀
ヲ觀スヤ其現數記シテ原簿ニ在リ是レ毫モ移動
スヘカフサルモノ即テ會計ノ標準ニシテ猶、道
路ノ里振アルカトシ乃テ此表ヲ作レヤ前後収
支ノ各科ヲ彙計シ以テ此標準ニ照合スルヲ務
ムルノミ故ニ縱令尺寸ノ間ニ於テ少出入アルモ
其大數計ニ至テハ必絲毫ノ差謬ヲキテ保ツニ足
レリ人其杜撰ヲ疑フ者アラハ請フ此一按ヲ舉テ
之ヲ斷セン



天
非
省

